

### —K—I-Sでの3年間で学んだことは。

3年間で「考える力」がついた。(邊)

K—I-Sの授業や学校生活のなかには、いろんな意味で考える機会が本当にたくさんあります。一番学んだことは「考える力」の大切さです。3年間で「考える力」がついたと実感しています。例えば、自由という言葉を聞いたとき、今までの私なら「開放的なことが自由だ」とばかり思っていましたが、K—I-Sでは「規則がある中でいかに自分が自由に生きていかく」という自由もあることを学びました。今まで私が絶対的だと思ってきた固定観念が大袈裟ですが覆され、一回じっくり自分で考えてみないと実際のところ

は分からないということがすごく多かった。時には裏目に出るときもあるけれど、最終的には、それっていいことだと思います。

宋 良い悪いは別にしてK—I-Sは生徒数が少ないので、大きな学校だと自立した生徒も目立つし、みんなの個性が出やすい。時には裏目に出るときもあるけれど、最終的には、それっていいことだと思います。

趙 K—I-Sに入るまでの学校は、どちらかと言えば友だちも似たような考え方をもつた人が多かつたから最初はK—I-Sでの学校生活に戸惑いがありました。それでもK—I-Sで、日本の学校や民族学校では出会うことがなかつただろう個性的な考え方をもつ友だちに出会ったことが大きかったです。もちろん衝突もありましたが、そうした経験を通じてすごく自分が成長できたと思っています。人はそれぞれ考

え方が違うということに納得できるようになります。とにかく人の話をよく聞くことの大さを学びました。でも、やつぱり正しいと思うことは貴かないといけない、曲げてはいけないことは最後まで曲げてはいけないこともあります。

宋 良い悪いは別にしてK—I-Sは生徒数

が少ないので、大きな学校だと自立した

生徒も目立つし、みんなの個性が出

やすい。時には裏目に出るときもあるけ

ど、最終的には、それっていいことだ

と思います。

趙 K—I-Sは、なにか勉強ができる生

徒が多い学校というイメージが先立つて

いるように思います。みんな英語、コリ

ア語、日本語の3ヶ国語ができるとか。

英検やTOEICの点数が高いとか。そ

れど「中身」のある学校にしたい。た

だ難関大学に進学するだけが、すべてで

はないと思います。そのことだけに目を

奪われてほしくない。

趙 私はK—I-Sが少人数であることが反

対に良かつたと思っています。先生と向

き合う時間が多いし、友だちどうしでも

お互いのことを知り尽している環境がす

ごくいい。先輩と後輩との距離も近いし、

卒業生は3人でも後輩たちがいるから寂

しくなかった。後輩たちも自分の意見は

押し殺さないというか、後輩なりに遠慮

はしてはいるみたいですが(笑)。でも先

輩にも自分の意見は必ず伝えるし、そ

した関係性はすごく良かった。

趙 「哲学カフェ」の時に、後輩たちが

「将来自分が何をしたいかが、まだ分か

らない。だから将来の夢を聞かれること



今年(2012年)2月25日、第2期生3名が卒業を迎える。

コリア国際学園(KIS)の草創期、たった3名の卒業生たちもまた、輝く青春の3年間を全力で疾走した。

彼女たちはKISで何を学び、何を後輩たちに伝えたいのか。素直に語っていただいた。(座談日:2011年12月19日)



\*2012年2月15日時点の大学合格

が嫌だ」という話を聞きました。私自身

将来のことを決める時に先輩たちのアドバイスが嬉しかったので卒業まで残り少ないですが、後輩たちに何か伝えていくべき思っています。「しない後悔より、なら、やってみたら」と言ってくださった先生の言葉が今でも心に響き、忘れることができません。先輩、先生、後輩たちと勉強だけではなく、ともに学び成長していくこと、良い距離感で接することができることがK—I-Sの目には見えない素晴らしいところかなと思います。

— 将来の夢は何ですか。

一番大切なことは、ひたむきに努力すること。(宋)

宋 大学受験は大変でしたが、これからのことを考えると大変なうちに入らないと思います。どこで生きるにしても一番大切にしたいことは、ひたむきに努力することだと考えています。

邊 私は受験を通してすごく自分の無力を感じました。限られた期間の中で、いかに周りの人たちに助けられていたかを痛感しました。高1の時には、ぼんやりとコリア語が好きだから将来は語学を生かした通訳や翻訳の仕事に就ければいいと考えていたので、理数系の勉強は必要ないと单純に考えていました。後々になつて、会計学か社会学を学びたいと考えていました。

将来的管理栄養士の資格を取りたい。(趙)

趙 将来は食物に関わる仕事がしたい。

宋 食べることは万国共通ですから、言葉が分からなくても食物を通して国境を越えてつながることができる方に気づきました。将来管理栄養士の資格を取りたい。

管理栄養士は病院や学校の給食の献立を考える仕事で知られていますが、私はそ

の資格を生かして例えば将来K—I-Sに

いる

邊 私も同感です。社会では人間関係が

えが変わった時には「時すでに遅し」でした。いつどこで自分の考えが変わるか分からぬから、苦手な勉強もしておく必要があると感じました。

宋 私も親からこれもあれもと小学校の時からすごく言われました。当時は、やらされている感があつて、自分から好きでやつたことはなかつたですね。でも最近思つたのが、やらされてきて意味があつたと気づきました。今後未来はどうなるか分からぬのだから、あれもこれも何でも積極的にやっておいた方がいいと思っています。

邊 昨年卒業した第1期生の先輩たちのようになりました。将来日本に住んでいけるではありません。高2から授業で在日コリアン史という教科をとるようになります。将来日本に住んでいけるコリアンのために何か貢献したいと考えています。

宋 朝鮮半島の歴史についてすごく学んでいます。

趙 自分たちが思つて伸ばしていってほしい。K—I-Sの英語教育が良いと思えるなら、英語の勉強もすごく頑張ってほしいし、この学校で夢を持つてほしい。人それぞれ夢が見つかるタイミングは違うと思うのですが、K—I-Sでは自分が望めばさまざまな体験ができる。後輩たちと仲良くして、タスキをつなげ学校を盛り上げることでK—I-Sの伝統を創つてほしいと思います。

宋 学校としてクラブ活動にもう少し力を入れてほしい。もちろん勉強することも大事ですが、クラブ活動を通して得られるものも大きいと思います。クラブを一生懸命することで団結力が身についたり、自分で考えて動かなければいけない活動も一生懸命取り組んでほしい。

邊 いろいろな形で先輩や先生、親から受け継いだものは全部自分のものにする姿勢をもつて、自分に関わった人たちすべてに感謝の気持ちを忘れないでほしいと思います。物事に固定観念や悪いイメージを持たず、肯定的に考えて何事にもチャレンジしてほしいです。そして本当に人と人とのつながりを大事にしてほしいなと思います。

宋 私も同感です。社会では人間関係が

常につきまとつわけだから。今、学校で勉強していることは社会に出た時にいつかきっと役に立つと思います。コミュニケーション能力が今の時代一番大切だし、在学中に自身で考えて身につけてほしいと思います。

趙 私はK—I-Sが少人数であることが反対に良かつたと思っています。先生と向き合う時間が多いし、友だちどうしでもお互いのことを知り尽している環境がすごくいい。先輩と後輩との距離も近いし、卒業生は3人でも後輩たちがいるから寂しくなかった。後輩たちも自分の意見は押し殺さないというか、後輩なりに遠慮はしてはいるみたいですが(笑)。でも先輩にも自分の意見は必ず伝えるし、そうした関係性はすごく良かった。

趙 「哲学カフェ」の時に、後輩たちが「将来自分が何をしたいかが、まだ分からぬ。だから将来の夢を聞かれること

が嫌だ」という話を聞きました。私自身将来のことを決める時に先輩たちのアドバイスが嬉しかったので卒業まで残り少ないですが、後輩たちに何か伝えていくべき思っています。「しない後悔より、なら、やってみたら」と言ってくださった先生の言葉が今でも心に響き、忘れることができません。先輩、先生、後輩たちと一緒に勉強ではなく、ともに学び成長していくこと、良い距離感で接することができることがK—I-Sの目には見えない素晴らしいところかなと思います。

— 将来の夢は何ですか。

一番大切なことは、ひたむきに努力すること。(宋)

宋 大学受験は大変でしたが、これから

のことを考えると大変なうちに入らない

と思います。どこで生きるにしても一番

大切にしたいことは、ひたむきに努力す

ることだと考えています。

邊 私は受験を通してすごく自分の無

力を感じました。限られた期間の中で、

いかに周りの人たちに助けられていたか

を痛感しました。高1の時には、ぼん

やりとコリア語が好きだから将来は語学を

生かした通訳や翻訳の仕事に就ければ

いいと考えていたので、理数系の勉強は必

要ないと單純に考えていました。後々に

なつて、会計学か社会学を学びたいと考

えていました。

邊 私は受験を通してすごく自分の無

力を感じました。限られた期間の中で、

いかに周りの人たちに助けられていたか

を痛感しました。高1の時には、ぼん

やりとコリア語が好きだから将来は語学を

生かした通訳や翻訳の仕事に就ければ

いいと考えていました。後々に

なつて、会計学か社会学を学びたいと考

えていました。

邊 私は受験を通してすごく自分の無

力を感じました。限られた期間の中で、

いかに周りの人たちに助けられていたか

を痛感しました。高1の時には、ぼん

やりとコリア語が好きだから将来は語学を

生かした通訳や翻訳の仕事に就ければ

いいと考えていました。後々に

なつて、会計学か社会学を学びたいと考

えていました。

邊 私は受験を通してすごく自分の無

力を感じました。限られた期間の中で、

いかに周りの人たちに助けられていたか

を痛感しました。高1の時には、ぼん

やりとコリア語が好きだから将来は語学を

生かした通訳や翻訳の仕事に就ければ

いいと考えていました。後々に

なつて、会計学か社会学を学びたいと考

えていました。

邊 私は受験を通してすごく自分の無

力を感じました。限られた期間の中で、

いかに周りの人たちに助けられていたか

を痛感しました。高1の時には、ぼん

やりとコリア語が好きだから将来は語学を

生かした通訳や翻訳の仕事に就ければ

いいと考えていました。後々に

なつて、会計学か社会学を学びたいと考

えていました。

邊 私は受験を通してすごく自分の無

力を感じました。限られた期間の中で、

いかに周りの人たちに助けられていたか

を痛感しました。高1の時には、ぼん

やりとコリア語が好きだから将来は語学を

生かした通訳や翻訳の仕事に就ければ

いいと考えていました。後々に

なつて、会計学か社会学を学びたいと考

えていました。

邊 私は受験を通してすごく自分の無

力を感じました。限られた期間の中で、

いかに周りの人たちに助けられていたか

を痛感しました。高1の時には、ぼん

やりとコリア語が好きだから将来は語学を

生かした通訳や翻訳の仕事に就ければ

いいと考えていました。後々に

なつて、会計学か社会学を学びたいと考

えていました。

邊 私は受験を通してすごく自分の無

力を感じました。限られた期間の中で、

いかに周りの人たちに

## KIS生徒と地元・豊川小学校の児童、相互に訪問

2011年9月1日（木）、KIS中等部の23名が地元の茨木市立豊川小学校を訪問し、3年生と交流を深めました。この日の4時限目に学校を徒步で出発し、20分後に豊川小学校に到着しました。小学校の校内を見学した後、給食と一緒に食べさせていただきました。KISには給食制度がないので、KIS中等部の生徒にとっても興味深い経験でした。豊川小学校の3年生のあるグループは、KISについても事前学習で調べたものを発表してくれました。KISの先生や生徒も、うれしそうに発表を聞いていました。

また、9月8日（木）には、豊川小学校の5年生がKISを訪れ、韓国からの留学生にインタビューしました。日本語を学習してきた韓国学生も、日本語のインタビューに一生懸命に応え、校内案内も率先して行いました。「顔」の見える地域の小さな国際交流の大切さを実感した相互訪問でした。



## KIS全校生徒、地元・郡山小学校3年生と音楽交流

地元の茨木市立郡山小学校の3年生23名とKIS中等部・高等部の生徒49名が、12月20日（火）、豊川いのち・愛・ゆめセンターで音楽交流会を行ないました。近くの郡山小学校とは、この間さまざま形で児童・生徒間の交流を深めました。

この日は、郡山小学校3年生がこれまでに習った歌や劇「かに合戦」を披露してくれました。KIS生徒が以前に教えた「サントッキ（山うさぎ）」を歌つたり、劇の中では一部中国語によるセリフもあり、KIS生徒たちから驚きと歓声が起きました。

同小学校の全校児童のうち約20%までに習った歌や劇「かに合戦」を披露してくれました。KIS生徒は外国语にルーツを持つ子どもで、国籍は8カ国に及びます。最後に郡山小学校の子どもたちが歌つた「数え歌（郡山バージョン）」の合唱がありました。

この日は、郡山小学校3年生がこれまでに習った歌や劇「かに合戦」を披露してくれました。KIS生徒は外国语にルーツを持つ子どもで、国籍は8カ国に及びます。最後に郡山小学校の子どもたちが歌つた「数え歌（郡山バージョン）」の合唱がありました。

最後に両校の校長先生から挨拶がありました。郡山小学校の平家陽一校長先生は、ユーモアを交えて話した後、KIS生徒たちに期待を込めながら「人は何のために生きるのかについて

て、若い時からしつかり考えていくべき」と静かに語りかけました。まるで自分の学校の子どもたちに語りかけているような真剣さと温かさでした。生徒たちもしっかりと受け止めました。KISの校長は「短い時間でしたが、とても幸せな時間でした」と語りました。



## 〈2011年夏〉KIS生徒、夏休みを活用し続々と韓国での教育・社会プログラムに参加

昨年（2011年）夏、KISの生徒たちは夏休みを活用して学園が推薦する韓国での様々なプログラムに積極的に参加しました。この期間中だけでも総勢15名もの生徒が韓国で心に残るひと夏を経験し、ひとり大きく成長して戻ってきました。生徒たちは「とても楽しく過ごせたいろいろな体験もでけて勉強にならなかった」と目を輝かせながら語りました。

7月13日から27日までは韓国教育科学技術部と国立国際教育院が主催した「在外同胞G20世代韓国招請プログラム」の第一次プログラムに2名が参加。コリア語の授業を受け、韓国のいろいろな場所を訪問し



世界大会の「韓・中・日青少年共同歴史教室」にも1日参加。8月17日～20日、世界の歴史、平和関係のNGOが一堂に会して、世界平和を模索する第4回歴史NGO世界大会（主催東北亞歴史財團、後援教育科学技術部）が「東アジアの未来100年の歴史を書き直す」という共通テーマで、ソウル・延世大学を会場に開催されました。

ここにも高等部の生徒3名が、同大会の一つの企画「韓・中・日青少年共同歴史教室（韓国YMCA主管）」に参加。朝から晩まで続く韓・中・日3国歴史教師による授業と生徒同士の討論というハードスケジュールをこなしました。最終日にはKISの生徒がNGO世界大会の全参加者の前で、討論内容をプレゼンテーションしました。

8月16日～21日には、韓国京畿道・高陽平和スリが主催した韓日青少年平和キャンプに高等部の生徒4名が参加しました。江華島事件で有名な江華島の砲台、南北コリアの軍事境界線、元「日本軍」慰安婦の共同施設「ナヌムの家」、ソウルの「安重根記念館」、水原華城博物館などを訪問し話を聞きました。20日は延世大学で開かれた第4回歴史NGO世界大会の「韓・中・日青少年共同歴史教室」にも1日参加。

ランティアとして各国から参加した子どもたちと有意義なプログラムを経験しました。

8月16日～21日には、韓国京畿道・高陽平和スリが主催した韓日青少年平和キャンプに高等部の生徒4名が参加しました。江華島事件で有名な江華島の砲台、南北コリアの軍事境界線、元「日本軍」慰安婦の共同施設「ナヌムの家」、ソウルの「安重根記念館」、水原華城博物館などを訪問し話を聞きました。20日は延世大学で開かれた第4回歴史NGO世界大会の「韓・中・日青少年共同歴史教室」にも1日参加。



## 秋晴れの一日、フットサルを通じて国際交流

「希望」をテーマにした第4回KIS文化祭が、2011年11月5日(土)、保護者や地域の方々も参加される中、行なわれました。この日はあいにくの雨模様でしたが、午前11時から校舎内で、生徒によるキムチ焼きめし・ゆず茶、保護者によるチジミ・キムチ販売などの模擬店が出店されました。会場には、KISをはじめ地元・豊川地区の諸団体で取り組まれた東日本大震災外国人被災者支援へ写真パネル展▽も行なわれました。

午後からは、KISの近くの豊川いのち・愛・ゆめセンターで、特別講演やステージ発表が行なわれました。特別講演は、東日本大震災で被災した岩手県・野田村にボランティアとして支援活動に取り組んでいる関西学院大学の関ゼミの学生5名による現地報告がなされました。

大学生たちは「被災された現場や人を身近に感じてほしい。メディアで使われる被災者という“人”はない。一人ひとり、3・11までは私たちと同じ家族があり、普通の生活をしていた人々。世の中にたくさんある対立や問題を解決していくには相手の立場を考えることが重要だ」と真剣にKISの生徒たちに伝えていた姿が印象的でした。KISの生徒からも質問があり、生徒たちにとつても震災を再考する貴重な機会となりました。

その後、KIS生徒による趣向を凝らしたステージ発表がありました。生徒たちが自主的に準備し演じる民族舞踊、ダンス、劇、テコンドー、バンド演奏、合唱などを観て、観客の方々からは笑い声や歓声が上がる中で、楽しい時間が過ぎていきました。文化祭を通じて、KIS全体のフレンドリーな雰囲気や生徒たちのユニークな(?)感性を体感していただいたのではないでしようか。



## テコンドー部、大会・国際交流の集いなどで大健闘！

秋晴れの2011年10月10日(月)、国際色豊かな12チームが参加する中、第2回さいのもとカップフットサル大会(主催・同実行委員会)が茨木市立豊川中学校のグラウンドで行なわれ、KISからも3チームが参加しました。KISは昨年に続き大会実行員会に積極的に参加するとともに、生徒たちも当日の会場設営のために朝早くから参加しました。

この大会にはKISの近くにある大阪イスラム文化センターを通じて、マレーシア、エジプト、バングラデッシュ、インドネシアのチームが参加したのに加えて、JICA(国際協力機構)大阪や地元の豊川中学校、沢良宜FCなど約百名が参加しました。

当⽇は国籍、民族・人種、言語、宗教、世代などの違いを越え、フットサルを通じて楽しい出会いと交流の場となりました。熱戦を繰り広げた試合会場はゴールが入ると歓喜の声があがり、優勝戦はJICAチームとエジプトチームの激突になり、JICAチームが優勝しました。

また会場の一角では、今年3月の東日本大震災の際に、東北からこの地域に避難してきた外国人被災者の受け入れ支援活動の様子を振り返るパネル展示も行なわれました。震災時KISでも、17名のバンガラディッシュの大学留学生を約1週間受け入れました。KISでは、今後もこうした地域の国際交流の場に積極的に参 加していきたいと思います。



## 第4回 KIS文化祭を開催



## 第2回体験学習、梅花女子大学へ

2011年12月11日(日)、第3回オール関西テコンドーオーデンントーナメント(日本国際テコンドー連盟関西本部主催)が開催され、KISテコンドー部の生徒たちが大健闘しました。中等部2年生の李庚鎬君は、型(中学生・高校生)及びジュニア無差別級で金メダルを獲得しました。また大会全体の最優秀選手(MVP)にも選ばれました。中等部3年生の南川瑞希さんも女子無差別級で銅メダルを獲得しました。

また、2012年1月14日(土)、茨木市国際親善都市協会主催による「2012年国際交流の集い」が茨木市市民会館で開催され、舞踊部、テコンドー部が出演しました。この集いは茨木市内の在住外国人と市民の交流を目的に毎年開催されているものです。この日、舞踊部は華麗なプチエチューム(扇の舞い)、テコンドー部はK-POPに合わせてトゥル(型)を演技し、板の試し割りも披露しました。出演した生徒たちは、会場参加者に手拍子を求めるなど堂々とした公演でした。



哲学カフェとは、小難しい哲学用語を使った論議ではなく、生きていくうえで出会うさまざまな問題について、日々生活し生きる人々が話し合い考えるトークサロンのことです。哲学カフェの企画は、年代や職種、国籍などを越えて対等な立場で話し合う場をつくろうと保健体育科の廣田景一先生が生徒さんに呼びかけたことをきっかけに始まりました。



## 第2回テーマ 夢について

てくれた紅茶などをすりながら論議が始まりました。最初に生徒から、哲学カフェに参加しても成績や給料は上がるなど、自分の意志で参加すること、人の意見を傾聴することなどのルールが説明されました。少々緊張した雰囲気で始まつた論議でしたが、1時間半の間話が途切れることなくあつという間に過ぎました。

論議は親と子どもの関係、教員と生徒との関係、友だちどうしの関係など多岐に渡りました。生徒たちをはじめ参加者が一人称（私は）で真剣に話をする姿が印象的でした。最後に、教職員から生徒に読んでほしい推薦本がプレゼントされました。

放課後に集まつた参加者らは車座になり論議を開始。論議の端緒として「越境人とは、単に国境を往来する人ではなくて、さまざまな境界や壁をつなぎ、またぐ人のこと。重要なことは越えてしまうことではなく、またぐイメージが重要では」「越境人とは、自分自身の価値観の座標軸を持ちつつ、しなやかな人」など の意見が出されました。

## 第2回テーマ 夢について

始まりました。最初に生徒から、哲学カフェに参加しても成績や給料は上がるなど、自分の意志で参加すること、人の意見を傾聴することなどのルールが説明されました。少々緊張した雰囲気で始まつた論議でしたが、1時間半の間話が途切れることなくあつという間に過ぎました。

学カフェ in KIS」が行なわれました。テーマは「夢について」。高等部生徒9名と教職員と保護者、地域で暮らす大學生教員、公立小学校の教員、新聞記者、多彩な大人11名の合わせて20名が参加しました。

2つのグループに分かれて、約1時間30分にわたり、「夢があるか」「夢といつどのように出会うのか」「大人が描く夢、高校生、中学生の抱く夢に違いがあるのか」などについて語り合いました。前回と同様、紅茶を飲みながら結構本音をぶつけながらの議論が続きました。

第3回テーマ K-1S建学の

学カフェ in KIDS」が行なわれました。テーマは「夢について」。高等部生徒9名と教職員と保護者、地域で暮らす大教員、公立小学校の教員、新聞記者、プロサッカーチームのマネージャーなど多彩な大人11名の合わせて20名が参加しました。

2つのクループに分かれて、約1時間30分にわたり、「夢があるか」「夢といつどのように出会うのか」大人が描く夢、高校生、中学生の抱く夢に違いがあるのかなどについて語り合いました。前回と同様、紅茶を飲みながら結構本音をつけながらの議論が続きました。

ワンワールドフェスの振り返り

その後、それぞれ各人の「壁」を感じた出来事や経験について、「折れない心」を作るためにはどうすればよいか、などについて論議がかわされました。「越境人」という定義をあまり決めつけないようにすることが大事では」などの生徒の意見も印象的でした。

「正解」を追い求める「キャッチアップ」型から  
「問題」解決に向けた「フロントランナー」型の人才培养へ

## 「たくましい創造力」の育成

グローバル化と成熟社会が進む中で、多様な他者（世代・価値観、職種など）との出会いと学びを通じて、生徒自身の学ぶ意欲を引きだし、KIS教育の特徴の一つである「たくま」い創造力を育成します。

そのために社会の第一線で活躍するゲスト講師を招き、身近なテーマからリアルな現実社会を学びます。

## 大学ゼミ方式の授業展開

KISの建学の精神と教育理念にそって専門のコーディネーターのもと、生徒たちの「読む力」(情報リテラシー)、「考え方抜く力」(論理力／判断力)、「組み合わせる力」(編集力／コーディネート力)、「表現する力」(コミュニケーション力／共感力)を育成します。授業は、KISの少人数クラスの環境を生かし、大学のゼミ方式で進められます。

生によつて、「法哲学・論理の知識」と題した授業が行なわれました。2回目の授業には他の教職員ら5人も参加しました。K I Sの教養・L A科授業は、原則的に大人の参加も自由です。年齢や経験などの違う生徒と大人が一緒に学びます。

い」。池田先生のそのようなひとことから始まつた授業は、「法律に固有の考え方とは何か?」という問いを中心に、さまざまな情報を盛り込みながら進められていきました。「安樂死」や「ミニヨネツト号事件」などの国内外的具体的な事件、世界史上の出来事、社会心理学的な実験、憲法・民法・刑法の具体的な条文、うどんとそうめんの違いなどの雑学、「ロミオとジュリエット」「ブルーフ・オブ・マイ・ライフ」『三匹の子豚』といった映画、外国人参政権などの時局的な問題、そして池田先生の豊富な経験談など。

以上のような情報から「法律的な見方・考え方」を学びつつ、授業では常に、別の見方・考え方ができるのか?」という問い合わせがなされました。「学校では発言の機会を与えてくれるけど、社会ではそうじやない」「発言しなければ、同意したとみなされますよ」。そのように言つて先生は、人の説明を鵜呑みにするのではなく、常に自分で思考する批判

アグシミン・エニグミン

教養・Liberal Arts科授業アクション・ワークショップⅠが、10月24日(月)、金湖蓮先生(ファシリテーター)を招いて行なわれました。中等部と高等部に分かれ、それぞれ2時間の身体を使つた「コミュニケーション」にかかるワークショップを行いました。今回の授業は年度末までに4回予定されているうちの導入の授業でした。

2グループに分かれて、Aグループの各人は講師から手渡されたカードの内容



法律的には、意思・主張がある者に権利得的に自分の意見を伝えることの重要さを語りました。

るワンワールドフェスティバル（主催・関西国際交流団体協議会）に自由参加した高等部生徒と、同行した廣田先生、池田先生との間の振り返りの機会として設定されました。

生徒たちは同フェスティバルに大きな刺激を受けたようでした。スペシャルゲストとしてジャニーズや宝塚音楽学校で大物アーティストの振付師として活躍している井島剛さんも今回の哲学カフェに参加しました。最後には、全員立ちあがつて井島さんの指導でダンスの手ほどきを受けました。嚴校長、金教頭も生徒と一緒にになり腕をクネクネさせながら（？）、ダンスに興じていました。2月19日（日）には、KISで1泊する哲学カフェ合宿が予定されています。